

第5章 1 「京・里山の挑戦」～交流・活力・安心の京都丹波プロジェクト～(重点構想)

京都丹波の強みをいかし、5つの基本方向に基づいて、19の具体的施策を進めていきますが、オール京都丹波で取り組む重点事業を「京・里山の挑戦プロジェクト10」と位置付けています。

(1) ^{たから}地域資源をいかした交流と賑わいの森の京都

①「森の京都」推進プロジェクト

豊かな森林資源を活用した「循環型林業の先進地づくり」を通じた林業の活性化、森林の持続的な維持管理等を側面から支える「森の文化の発信」等、森について多方面にとらえ、森の持つ多面的機能をいかす新たな価値創造により地域の活力と交流の拡大を推進します。

②養生の里プロジェクト

京都丹波の森・里・川の恵み、ブランド農畜産物等、地域の豊かな食材を使用した新たな地域特産品開発と一元的な情報発信を通じた魅力アップを図ります。また、農と医福連携による、地場野菜等を活用とした子どもから高齢者までを対象にした「京都丹波スタイルの食育のまちづくり」を推進します。

③京都丹波まるごとスタジアム化プロジェクト

府、市町や関係団体が一丸となって、地域の豊かな自然環境や京都スタジアム（仮称）、丹波自然運動公園等をいかし、スポーツと食・観光等の地域資源を結ぶプログラムの開発や新たな大会や合宿の誘致、スポーツボランティアの育成等、体験型の京都丹波ならではのスポーツ観光を推進します。

(2) だれもが健やかで住んでみたくなるまちづくり・人づくり

④ストップ少子化京都丹波プロジェクト

少子化問題に対する抜本的な対策検討のための「京都丹波地域少子化対策戦略会議」の結果等をふまえ、地域特性をいかしながら若者の定住化支援、安心して子どもを産み育てられる環境づくり、地域の雇用や生活基盤の充実等に市町や地域団体と連携して取り組みます。

⑤健康長寿の京都丹波づくりプロジェクト

大学や企業と協働し、地元農産物を活用した子どもから高齢者までを対象にした「京都丹波スタイルの食育のまちづくり」や働き盛り層に対する生活習慣病やがん予防に取り組み、生涯にわたる健康づくりを推進します。また、元気な高齢者の経験や知識を地域でいかし、生きがいを持って社会貢献できる仕組みづくりを推進します。

(3) 地域の活力を支える産業・農林業の振興

⑥京都丹波の強みをいかしたものづくり産業拠点づくりプロジェクト

「ブランド京野菜」をはじめ安心・安全な農林産物をいかした食料品製造業、京阪神地域や京都舞鶴港等へのアクセスの良さ等から立地する金属製品製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業、輸送用機械器具製造業等、多様な業種の企業が立地している地域の強みをさらに強化させるため、ものづくり産業の育成と企業誘致の促進、ものづくり産業を地域で支える人材育成を推進します。

⑦農商工連携を軸とした「めざせ年商1億円プレイヤー」プロジェクト

立地する大学や大学校、企業、農林水産技術センター等と連携し、地域農業を支える若い農業経営者の育成のための「農起業経営アカデミー(仮称)」の開設や「京都丹波アグリネット(仮称)」を核にした農商工連携による商品開発や新しい販路開拓に取り組みます。

⑧ユニバーサル農業(福祉農業)創造プロジェクト

福祉分野と連携し、農作業や農産加工等への障害者の就労や高齢者の生きがいづくりの推進、農作業を利用した園芸療法等の社会復帰支援等、農業の有する多面的な機能に着目し、新たな付加価値を生み出すユニバーサル農業(福祉農業)に取り組みます。

(4)安心・安全と交流を支える基盤整備

⑨災害に強い「京都丹波」づくりプロジェクト

平成25年の台風18号や平成26年の台風11号等の豪雨被害を踏まえ、災害に強い地域づくりを推進します。

- ・孤立集落の発生を防止し、道路・河川等災害に強い基盤を整備するとともに、広域防災活動拠点(丹波自然運動公園)等の充実を図ります。
- ・国道372号、亀岡園部線、枚方亀岡線や茨木亀岡線等の整備等災害時の救助や緊急物資の輸送等のルートとなる緊急輸送道路ネットワークの確保を図ります。
- ・国道423号法貴バイパス等、阪神地域とのネットワークを整備するとともに、京都スタジアム(仮称)のアクセス道路となる郷ノ口余部線(宇津根橋)の整備を進めます。

(5)「京都丹波」ブランドの国内外への発信

⑩京都丹波広報戦略プロジェクト

若者、女性視点で地域の再発見や情報発信する「京都丹波・写ガール隊」とコラボした広報戦略や、コンビニエンスストアや道の駅等と連携した地域情報の提供、高速交通ネットワークをいかすための京阪神地域への広報戦略の充実を図ります。